

クローズアップ



広島テレビ放送株式会社新社屋

建物外観

庄 聡

(Satoshi Sho)

東芝エレベーター株式会社
中国支社 建設グループ

1. はじめに

広島テレビ放送株式会社は、中国地方の中核都市、広島市に本社を置く日本テレビネットワークの地上波テレビ局、1962年(昭和37年)9月1日に開局しました。

2018年秋、広島テレビ放送株式会社は本社を広島の陸の玄関であるJR西日本広島駅の北口前、東区二葉の里に移転します。2018年3月の竣工後、約半年かけて放送設備のテストや運用トレーニングを実施し、同年9月末からの放送開始を予定しています。

新社屋は地上11階建てで、免震構造を採用しています。1階はエントランス、多目的ホールとなっており、2、3階は最大収容人数2000人規模の無柱空間を2フロア備えたコンベンションホールとなっています。人が集まる立地を生かして新しい社屋で新しい時代の情報発信を続けます。

2. 建物概要

所在地：広島県広島市東区二葉の里三丁目5番4号

建築主：広島テレビ放送株式会社

設計監理：大和ハウス工業株式会社

施工：大和ハウス工業株式会社

建物用途：テレビ放送局、多目的ホール、店舗

敷地面積：5,098.48㎡

建築面積：2,956.43㎡

延床面積：19,765.84㎡

構造：鉄骨造

階床数：地上11階

建屋高、軒高：58.98m

工期：2016年9月16日～2018年3月15日

竣工日：2018年3月15日

開業日：2018年9月末予定

3. 昇降機設備

新社屋には6台のエレベーターと4台のエスカレーターが設置されています。

建物南側のガラス越しに見えるエスカレーターは、明るい色の外装板を採用し、底面にはダウンライトを設置しているため昼夜を問わず外部から存在感を表しています。また、乗車時には解放感あふれる景色が楽しめます。

建物北側に配置された3台の群管理エレベーターは、エントランスホールからすぐにアクセスでき、使い勝手の良いエレベーターとなっています。乗場意匠は、シャープなイメージを与えるステンレス素材の直線枠にホールランタン、乗場ボタンを組み込み、建物の美しさを損なわないデザインとなっています。バックヤードには美術品を運搬する大容量の荷物用エレベーターが設置されています。また、人荷用として単独で稼働するエレベーターは、報道、制作関係者の利用を考慮し、1階と5階(報道、制作フロア)とを直行可能な運転機能を有しており、利便性が期待されます。

クローズアップ



乗用エレベーター 乗場



乗用エレベーター 乗場



乗用エレベーター かご内



エスカレーター

エレベーター仕様 (計 6 台)

号機	用途	制御方式	運転方式	積載質量 (kg)	定員 (名)	速度 (m/min)	台数 (台)	停止階床数 (サービス階)	メーカー	備考
1	乗用	インバーター	乗合全自動方式	1000	15	60	1	3 (1~3)	東芝	車いす仕様
2、3	〃	〃	全自動群管理方式	1000	15	105	2	10 (1~10)		兼非常用車いす仕様
4	〃	〃		1150	17	105	1	10 (1~10)		兼非常用
5	人荷用	〃	乗合全自動方式	1150	17	105	1	11 (1~10、PH)		兼非常用
6	荷物用	〃	〃	4500	—	45	1	8 (1~8)	日運	—

エスカレーター仕様 (計 4 台)

号機	形式	欄干意匠	速度 (m/min)	サービス階	階高 (揚程) (mm)	台数 (台)	メーカー	備考
1、2	S800	強化ガラス	30、25、20	1-2	6900	2	東芝	自動運転付き
3、4	〃	〃	30、25、20	2-3	6400	2		〃